

Q&A

昭和発達障害  
医療研究所所長

加藤進昌さん  
かとうのぶまさ



1972年、東京大医学部卒業。滋賀医大教授、東大病院長、昭和と大烏山病院院長などを経て、2014年から現職。

大人の発達障害について、昭和と大烏山発達障害医療研究所所長の加藤進昌さんに聞いた。

「生まれつき脳の機能に障害があるため、昭和大発達障害医療研究所所長の加藤進昌さんに聞いた。」

「生まれつき脳の機能に障害があるため、昭和大発達障害医療研究所所長の加藤進昌さんに聞いた。」

「生まれつき脳の機能に障害があるため、昭和大発達障害医療研究所所長の加藤進昌さんに聞いた。」

「生まれつき脳の機能に障害があるため、昭和大発達障害医療研究所所長の加藤進昌さんに聞いた。」

「生まれつき脳の機能に障害があるため、昭和大発達障害医療研究所所長の加藤進昌さんに聞いた。」

「他者の視線を意識したり、思いを推測したりするかもしれません。」

「他者の視線を意識したり、思いを推測したりするかもしれません。」

「他者の視線を意識したり、思いを推測したりするかもしれません。」

「他者の視線を意識したり、思いを推測したりするかもしれません。」

「他者の視線を意識したり、思いを推測したりするかもしれません。」

「他者の視線を意識したり、思いを推測したりするかもしれません。」

# 「心の病気」との誤診多く

降は大人にも使えるようになりまし。アスペルガー症候群など、その他の発達障害の治療薬は現時点ではありません。ただ、女性の陣痛や母乳の分泌を促すホルモン的一种、オキシトシンが、自閉症の症状緩和に役立つと期待されています」

「昭和大烏山病院では08年から、発達障害の患者を対象にした「ダイケアを開き、試行錯誤しながら支援プログラムを構築してきま

「的確な診断ができる医師や医療機関は、まだ限られています。学校でのいじめや職場での失敗による、うつ病や不安障害など、ほかの心の病気とみなされるケースも多いのです」

「一方で、昭和と大烏山病院の発達障害外来を、発達障害を疑い受診した患者の半数以上は、本来はそうではないと考えられます。私自身の反省も含めて、過剰診断も珍しくありません」

「発達障害」とどう向き合うべきでしょうか。

「ダイケアへの関心は高いので、実施するスタッフ確保などに課題はあるものの、今後ともプログラムを改良しながら、より多くの医療機関に浸透させていきたいと考えています」

「脳機能の障害が問題であり、苦手なことは本人の意思ではどうにもならないことが多いのです。努力が足りない」と自分を責め、うつ病や引きこもりなどにつながる恐れもあります。本人は社会的なスキルを学ぶ努力をする一方で、得意な部分に着目し、それを生かす社会の環境作りも必要です」

「子どもの頃から症状があるため、これまで子どもの病気と思われてきました。しかし、見過ごされる

「次は「薬害の背景」」

診療の問題点は。

(野村昌文)